

(3) あおぼ学校支援ネットワーク

団 体	事務局	住所 横浜市青葉区奈良4-1-1 TEL 070-6974-0184		
	設置年	平成17年	会員数	23名
	目的	学校教育の支援活動にかかわるボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして、子どもたちの視点にたったよりよい学校教育を支援することを目的としている。青葉区内の全市立小・中学校を対象とする学校支援ボランティアのコーディネート事業を行うコーディネーターの団体である。		
コ ー デ ィ ネ ー タ ー	人数	23名		
	主な経歴	平成16年度青葉区自主事業「学校ボランティアコーディネーター養成講座」及び平成20年度青葉区協働による地域力アップ事業「学校支援コーディネーター養成講座」修了者により結成された事後グループのメンバーである。		
	活動状況	随時	活動拠点	青葉区区民活動支援センター 区役所協働スペース

組織について

代表1名、事務局長1名、会計1名、幹事1名の他に情報担当1名、ホームページ担当1名がいる。情報担当は登録ボランティアの個人情報管理を行い、ホームページ担当は講座の案内や活動報告、広報紙の作成を行いホームページに掲載している。青葉区内30校の小学校には一人が2校かけもちしながら1校あたり2名のコーディネーターが担当している。2名のコーディネーターは正コーディネーターと副コーディネーターとなり、正コーディネーターが学校との連絡役となりコーディネートを中心となっている。

主な活動は次の3点である。

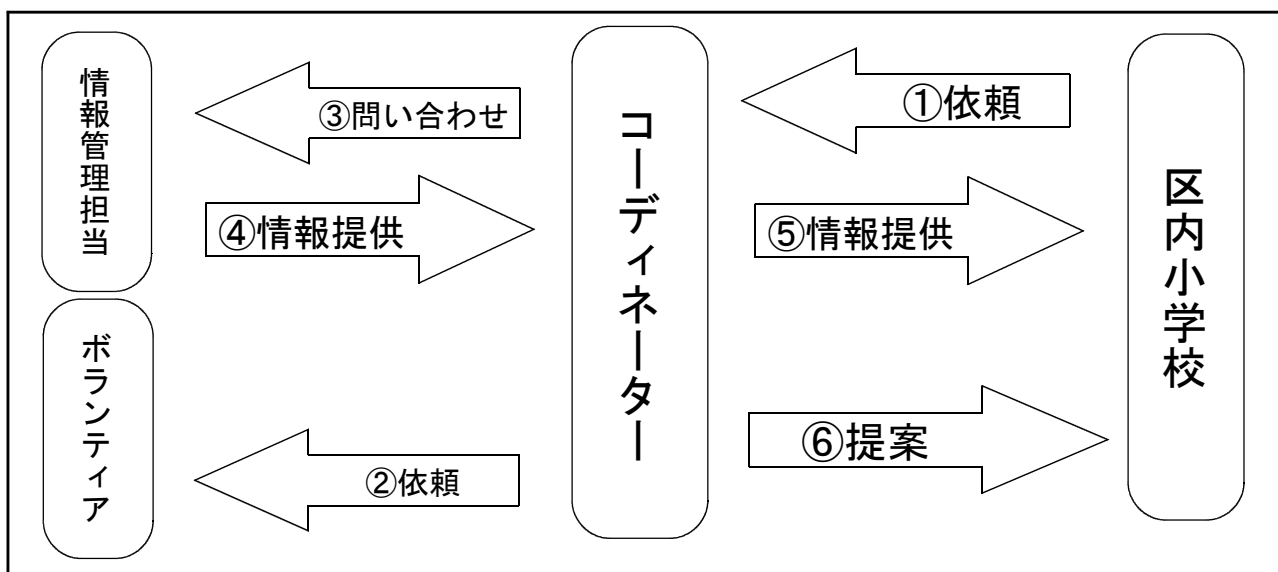
- ・学校の要請によるボランティアの紹介、および学校へのボランティア活動や出前授業の提案を行う。
- ・ボランティアの養成と研修およびボランティア同士の交流の支援を行う。
- ・土曜日などの休日に、地域との連携による小学生を対象とした課外活動の企画・運営を行う。

毎月、第3金曜日の午後、区民活動支援センターで定例会をもち、コーディネーターとしての関係各校の情報交換を行う。出前授業の提案がある場合には、提案者を中心に定例会で協議を進める。提案者＝実行者の原則があり、提案者に何人かのメンバーが加わりプロジェクトを組んで、企画・運営する。

※出前授業とはコーディネーター側から提案する、土曜塾（後述）やクラブ活動などのプログラムのこと。

コーディネーションの実際

学校の依頼に対してボランティアを確保し、支援を行うまでの基本的な流れはコーディネーターを中心に次のようになっている。



コーディネーターは、担当校から依頼があると (①) 直接ボランティアに依頼したり (②)、また情報管理担当に問い合わせをし (③) ボランティアの人材情報を提供してもらい (④)。そして学校に紹介する (⑤)。また、コーディネーターの方から担当校へ提案する場合もある。①の依頼は新入生クラス支援や校外学習の引率、運動会の会場整理などが該当し、⑥の提案は土曜塾などが該当する。

※土曜塾とは土曜日の子どもの居場所づくりとして、体験をテーマとしたプログラムを子どもたちに提供する団体と区との協働事業のこと。

次に具体的なコーディネーションの流れを「新入生クラス支援」を例に挙げて示す。

○ねらい

「新入生クラス支援」とは、ボランティアをアシスタントティーチャーとして各学級に配置することで、入学したばかりの新入生が安心して学習や活動に取り組むことができるようにすることをねらいとしている。活動内容は学校との相談で決めるが、朝の会から下校までの、主に新入学生の生活や学習支援を行う。担任教員の全体指導に対して、ボランティアは、発達段階やルールの理解が異なる児童を個別にサポートしている。

○実施に至るまでのスケジュール

前年度中に担当校の依頼を受けて、コーディネーターが学校のニーズに合わせた計画を作成し、学校側と調整する。3月初旬ボランティアを確保し、3月中旬にはボランティアの日程調整を行い、学校へ連絡をする。3月下旬、ボランティアを対象に説明会・研修を実施し、4月初めの校長面談と担任との打ち合わせを経て実施に至る。学校と地域の連携の視点から日々の子どもの学校生活を豊かなものにするという共通の目的のもと、先生とボランティアが時間や場面を共有することによって、地域と学校がとも

に手を携えて学校教育に関わる実践的なモデルケースとして位置づけている。

<ボランティアの感想>

- ・教室に入ること自体が初めてだったので、最初は戸惑った。どこまでかかわったらよいか迷った。回数を重ねると様子が分かってきて自然に足が教室に入った。
- ・担任の先生と校長先生から深々と感謝され、明日からのボランティア不在を心細げに話された。その言葉で役に立てた感じがした。等

<校長先生の感想>

- ・集団としてどう対応するか大変な時に細かい対応をしていただけて本当に感謝している。これからの学校の在り方を考えるとこうした活動の大切さが分かった。

○活動終了後

学校側をまじえた反省会を行い、記録にまとめて次年度に備えた。今年度始業前と下校後に打合せを取り入れたことで円滑なコミュニケーションが図られた。その結果、学校支援ボランティア活動が単なる「地域人材の活用」ではなく、子どもを中心において顔を合わせ一緒に考える行動する大人たちの姿が見られた。

○体制整備

自分たちの団体がコーディネーターとして責任をもってボランティアを学校に紹介するために、ボランティアの養成やスキルアップの研修を実施している。ここでは「図書ボランティアフェスタ」「小学校英語フォーラム」「青葉まちのマイスター講座」を例に挙げて示す。

「図書ボランティアフェスタ」

ボランティアとして参加していた方もスタッフとしてプロジェクトチームの一員となり、企画運営を一緒に行った。週に1～2回の打合せをもち、ボランティアから今後の活動に役立つアイデアを出してもらった。案内のチラシは学校や公共施設に配布し、参加者を募集した。資金面では独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子ども夢基金」の助成を受けて実施した。その後、「学校図書ボランティア交流会」を実施し、ボランティアの交流を設けた。

(図書ボランティアフェスタチラシの一部)



<参加者の感想>

- ・作って持ち帰ることができ、楽しかった。
- ・糸とじを初めてやった。学校の本のバラバラゾロリも助けられるかもと、わくわくしている。
- ・読み聞かせで講師の方からコメントをいただけてよかった。等

「小学校英語フォーラム」

英語の得意なコーディネーターが発案し、企画運営した講座で既に英語サポーターとして活動している方、これからサポーターとしてかかわっていきたいと思っている方を対象に行った。内容は区の教育委員会学校教育課の担当と相談し決定した。区内外から約90名の参加があり、関心の高さが示された。その後、「英語サポーター研修会」を実施し、交流や情報交換の場を設けた。

「青葉まちのマイスター講座」

地域の大人同士がコミュニケーションを深め、地域社会にかかわるきっかけを持ち、地域の教育力の向上につなげるためにこの講座を開催した。講座では、「青葉区を見る・知る・味わう」をテーマに歴史、環境、芸術など青葉区を知り、地域活動を楽しむことを主眼に、区内で活躍する方を講師として依頼し実施した。講座の修了後にはそれぞれの次のステップを考えるよう促した。修了者には関連する情報を提供して結びつきを保ち、学校支援ボランティア等としての協力が得られるよう、ボランティアとして活動してもらうきっかけづくりを行った。

○留意点

- ・学校に対しては区内全小学校に対して担当を決め、各担当者ができるだけ訪問し校長先生や必要により先生方と直接話をする機会を持つようにしている。
- ・年度初め、区の校長会で代表が活動報告とともに、今年度の活動の予定などをお知らせし、学校への理解促進に努めている。
- ・地域に対して「青葉まちのマイスター講座」「あおばエコ大作戦」「区民祭り」等を開催したり活動に協力したりすることをおして、積極的に地域に働きかけ、組織の信頼確保に努めている。
- ・団体の会員用ハンドブックを作成し活用することで、コーディネーターとしての活動を確認し、信頼確保に努めている。
- ・行政と常に協力関係を保ち、お互いに共有する目的に向かって推進している。

成果と課題

○成果

- ・コーディネーターが関わる学校が増えてきた。また依頼の件数も増えており、今後は区内の全小学校に関わるように信頼確保に努めていきたい。
- ・少しずつ地域の人たちの協力や信頼を得られてきた。今後ボランティアとして活動できる方を増やしていきたい。
- ・スキルアップ講座などにより、一人一人のボランティアがさらにスキルを身につけ、意欲的に取り組んでいる。

○課題

より充実した体制を模索し、活動資金的にも自立した団体として、学校・家庭・行政の信頼に応えることを目指したい。